

アメリカのスポーツ観戦ガイド

How to Enjoy Professional Sports in North America

中村 隆志

キーワード：ベースボール、アメリカンフットボール、バスケットボール、アイスホッケー



(なかむら・たかし)
歯学博士
ICDフェロー
大阪大学大学院
歯学研究科
歯科補綴学第一教室

1. はじめに

2011年度新フェローの中村隆志と申します。大学卒業以来、補綴講座に所属して、臨床、教育および研究に従事しております。臨床や教育の専門はクラウン・ブリッジであり、ジルコニアを始めとするセラミックス材料やCAD/CAMシステムに関する研究を行っています。学会やプライベートでアメリカに行く機会が多く、時間があればアメリカの4大プロスポーツの観戦をしています。学術的な話題に関しては、別の原稿^{1, 2)}を参照いただくとして、今回はアメリカのスポーツ観戦についてお話したいと思います。

2. 4大スポーツとMLBスプリングトレーニング

アメリカでは一般に、野球、フットボール、バスケットボール、アイスホッケーの4つが4大プロスポーツといわれており、「ビッグフォア」とよばれるプロリーグがあります。日本の方々が一番なじみのあるのが、野球すなわちメジャーリーグベースボール (MLB) だと思います。1995年にロサンジェルス・ドジャースに移籍した野茂英雄投手の活躍以来、MLBは日本でも多くの試合が中継されるようになり、イチロー選手や松井秀樹選手の活躍を現地で観戦される方が増えました。2012年のシーズンには、ダルビッシュ投手 (テキサス)、岩隈投手 (シアトル)、青木選手 (ミルウォーキー) など日本で実績のある名選手が多数MLB入りすることになり、楽しみが増えました。

MLBは3月に日本のオープン戦に相当するスプリングトレーニングを行ってから、4月に開幕して10月初めまで162試合のレギュラーシーズン、その後にワールドシリーズにつながるポストシーズンのゲームを行います。短期間に多くのゲームを観戦したい、あるいは選手を身近でみたいのであれば、レギュラーシーズンよりもスプリングトレーニングがお勧めです。

MLBにはアメリカおよびカナダに本拠を持つ30球団が所属しており、アリゾナとフロリダに分かれてスプリングトレーニングを行います。それぞれ、カクタス (さぼてん) リーグ、グレープフルーツリーグと呼ばれています。午前中に打撃や守備、走塁練習などを行い、午後あるいは夕方から試合 (いわゆるオープン

戦)を行うのが一般的です。レギュラーシーズンの試合が3~5万人収容の大きな球場で行われるのに比べて、スプリングトレーニングの試合は1万人前後収容の小さな球場で行われるので、選手をすぐ前でみられるだけでなく、握手したりやサインをもらったりする機会も多くなります(図1~4)。午前中に行けば、イチロー選手のバッティング練習だって見学できます。チケットは1月に発売され、日本でもMLBのホームページで、各チームのサイトからインターネットで購入することができます。通常はWill Callというシステムが使われ、日本でチケット予約とクレジットカードによる支払いを済ませておけば、現地でチケットを受け取ることができます。スプリングトレーニングはレギュラーシーズンに比べてチケット代が安いのも魅力です。例えば2012年のマリナーズの場合、バックネット裏の座席はレギュラーシーズン60ドルのものが、スプリングトレーニングでは23ドルで購入可能です。私はアリゾナのカクタスリーグに行ったことがあります。人気があるのと、座席数がレギュラーシーズンよりも少ないので、早めには買わないと良い席は確保できません。レンタカーは必要ですが、30分程度の移動でレギュラーシーズンではなかなか見られないドジャース、マリナーズ、エンジェルス、カブス、レンジャースなど日本人選手が在籍するチームの試合を毎日みることができます。

ト裏の座席はレギュラーシーズン60ドルのものが、スプリングトレーニングでは23ドルで購入可能です。私はアリゾナのカクタスリーグに行ったことがあります。人気があるのと、座席数がレギュラーシーズンよりも少ないので、早めには買わないと良い席は確保できません。レンタカーは必要ですが、30分程度の移動でレギュラーシーズンではなかなか見られないドジャース、マリナーズ、エンジェルス、カブス、レンジャースなど日本人選手が在籍するチームの試合を毎日みることができます。

3. MLBレギュラーシーズンとプレーオフ

一方、レギュラーシーズンの試合は、平日の夜(ナイトゲーム)そして土日の昼間(デイゲーム)に開催されます。年間162試合あることに加え、球場の多く



図1 スプリングキャンプで使用される典型的な球場(アリゾナ)

fig. 1 Typical ballpark for MLB spring camp (Goodyear Ballpark, Arizona)



図2 イチロー選手の打席(スプリングキャンプ、アリゾナ)

fig. 2 Ichiro at-bat (Spring camp, Arizona)



図3 ボールにサインするエンジェルス・ソーシア監督(アリゾナ)

fig. 3 Angels manager Mike Scioscia signs a ball (Arizona)



図4 試合前の松井秀喜外野手(アリゾナ)

fig. 4 Outfielder Hideki Matsui before the game (Arizona)



図5 ロサンゼルス・ドジャースのホームであるドジャースタジアム
fig. 5 Dodger Stadium is the home ballpark of Los Angeles Dodgers

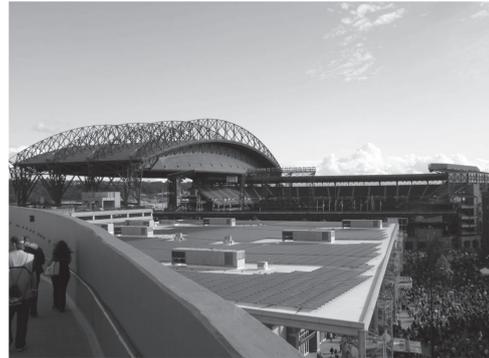


図6 天然芝と開閉式の屋根をもつセーフフィールド（シアトル・マリナーズ）
fig. 6 Safeco Field (Seattle Mariners) is the ball park with real grass and a retractable roof.



図7 MLBで2番目に古いリグレイフィールド（シカゴ・カブス）は1914年に建てられた
fig. 7 Wrigley Field (Chicago Cubs) was built in 1914 and the second-oldest ballpark in the MLB

は4万人以上収容できるので、チケットは比較的取りやすいと思います。ただし、ニューヨーク・ヤンキースやボストン・レッドソックスなどの人気チームのホームゲームは、売り切れになることが多くなります。このような場合は、公認のチケットブローカーから合法的に転売チケットを購入することができます。最大手のStubHubでは、MLBだけでなく、フットボールやバスケットなどほとんどのゲームチケットが購入可能です。アメリカにコンタクトアドレスが必要ですが（滞在するホテルでも登録可能）、日本でもインターネット配送のチケット（エレクトリックデリバリー）であれば簡単に手配できます。ただし、人気のあるチケットほど購入価格は高くなり、額面の何倍にもなる場合があります。逆に、優勝決定後の消化試合など人

気のない場合は、額面よりはるかに低い価格でチケットが手に入ります。

MLBでは、ほとんどが天然芝で美しい球場が使用されます。ヒューストンのアストロドーム（1965～1999シーズンに使用）に代表される人工芝のドーム球場が流行したこともありましたが、天然芝の球場への回帰が進み、現在ではシアトル・マリナーズのようにドーム球場であっても開閉式で天然芝のフィールドが主流です。また、約100年前に作られたボストン・レッドソックスのフェンウェイパークやシカゴ・カブスのリグレイフィールドのような木造の球場から、最新鋭の新ヤンキーススタジアムまで様々な球場が使われます（図5～7）。日本の球場は左右対称な形が一般的ですが、前述のフェンウェイパークやヤンキースタジアムのように左右非対称な球場も多くあります。また、エンジェルススタジアムのようにホームチームの選手がホームランを打つと花火があげられる球場など、試合以外にも楽しめる環境が整っています（図8、9）。ただし、ニューヨーク（ヤンキース、メッツ）、シカゴ（カブス、ホワイトソックス）、ボストン（レッドソックス）、マリナーズ（シアトル）などを除くと日本のように電車で球場に行くのは困難です。日本のように延長戦の時間制限がないMLBは試合終了が深夜になる場合があります、球場往復の交通手段の確保が重要です。

アメリカ国家の斉唱に続いて試合が始まります。日本のように鳴りもの入りの応援はありませんが、観客のほとんどが地元チームを応援するので、地元チーム



図8 ホームであるエンジェルス選手がホームランを打つと花火が打ち上げられる
fig. 8 Fireworks will be set off if the player of Angels hits a home run (Anaheim)



図9 ニューヨーク・ヤンキース時代の松井秀喜選手（アナハイム）
fig. 9 Hideki Matsui of the New York Yankees era (Anaheim)

のチャンスや得点の際は大いに盛り上がります。緑のきれいな球場で、ホットドッグやビールを片手に野球観戦を楽しんでいただければいいと思います。

MLBは、アメリカン、ナショナルの2つのリーグがあり、さらに東、中、西の3地区に分かれています。レギュラーシーズンが終わると、両リーグとも地区優勝の3チームに、優勝以外で勝率1位の1チーム（ワイルドカード）を加えた4チームでプレーオフが行われます。アメリカン、ナショナルのそれぞれのリーグ優勝チームが最後に対戦するのがワールドシリーズです。2009年のシーズンにはアメリカンリーグの覇者であるニューヨーク・ヤンキースがワールドシリーズを制し、松井秀樹選手がワールドシリーズMVPになったのが記憶に新しいところです。

4. アメリカンフットボール (NFL)

アメリカで最も人気のあるスポーツはアメリカンフットボールです。プロフットボールのNFL(National Football League)だけでなく、カレッジフットボールも地元ではすごい人気があります。カレッジでも有名チームは数万人収容のスタジアムをもっていますが、NFLはそれ以上で、6～8万人程度の収容力をもつスタジアムが一般的です。

NFLには、AFC (American Football Conference) とNFC (National Football Conference) の2つのカンファレンスがあり、それぞれ16チーム、計32チームが所属しています。フォーブス誌の2011年の統計で、

アメリカのプロスポーツチームで最も資産価値があるのは、NFLのダラス・カウボーイズ(18億ドル)であり、その価値はMLBニューヨーク・ヤンキースをしのぐといわれています。この統計では、ベスト30に入っているのが、NFL23チームに対してMLBはわずか2チーム(ヤンキース、レッドソックス)だけであることからアメリカでの人気の高さがうかがえます。NFLのレギュラーシーズンは、9月中旬から1月初めまでの約4カ月で、16試合だけ行われます。レギュラーシーズンが終わると野球のMLBと同じように、両カンファレンスの地区優勝チームにワイルドカードを加えた6チームでプレーオフが行われます。野球とは違って、プレーオフはすべて1試合です。両カンファレンスの優勝チーム同士が最後に戦うスーパーボウルはアメリカ最大のスポーツイベントといわれています。残念ながら、日本人でNFLの正式なメンバーになった選手はいません。現在オービックシーガルズに所属している木下典明選手など数名がNFLのキャンプに招かれオープン戦に出場したことはありますが、最終的にNFLの選手になることはできませんでした。

このように人気が高いことに加えて、レギュラーシーズンでホームゲームが8試合しかないことから、チケットの入手はかなり難しいです。スタジアムの半分以上の席が、年間契約席になっています。例えば、シアトルでもイチローの出場するMLB・マリナーズのスタジアムが満席になることは、ほとんどありませんが、隣にあるNFL・シーホークスのスタジアムは



図10 試合の日はチームウェアを着た多くの人々が登場する（スタジアム周囲、シアトル）

fig. 10 Many people with team wear appear the game day (Near the stadium, Seattle)

約70,000人の観客で満席になります。チケットが比較的手に入れやすいのは、西海岸では、オークランド・レイダースやアリゾナ・カーディナルスだと思います。その他のチームは、チームのホームページから早い時期に手配するか、前述のStubHubなどを利用することになります。

NFLの試合の日は、スタジアム周辺は朝から大騒ぎです。チームのユニフォームを着たり、顔にペイントをした多くの人々が歩きまわっており、駐車場では車の後部でバーベキュー（テールゲートバーベキューとよばれています）をしている光景があちこちで見られます。スタジアムに入場するときはボディチェックが行われるので、少し前に着いていないと試合開始に遅れてしまいます（図10、11）。

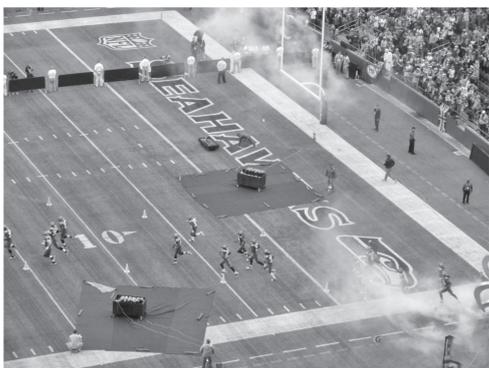


図12 ホームの選手入場では花火が打ち上げられる（シアトル・シーホークス）

fig. 12 Fireworks are launched in the entrance of home players (Seattle Seahawks)



図11 多くの観客であふれかえるNFLのスタジアム（オークランド・レイダース）

fig. 11 The stadium of NFL fills with many spectators (Oakland Raiders)

選手入場、国家斉唱に続いて試合が開始されます。地元チームの選手が入場する時は花火などで盛り上げるスタジアムも多いようです。試合では、司令塔となるクォーターバック（QB）を始めとして、100メートルを10秒台で走れる選手や、相撲の力士なみの体格を持った選手など、ポジションに応じた体格、能力をもった選手が登場します（図12、13）。QBのヘルメットには無線がついており監督（ヘッドコーチ）の指示を受けて攻撃スタイルを決めていきます。アメリカの観客はフットボールのルールを良く理解しているので、地元チームのチャンスには大きな声援がひびきわたります。逆にビジターチームの攻撃では、QBの指示が伝わりにくいようにクラウドノイズと呼ばれる大きな騒音を発します。どちらの場合も観客席は大いに盛り上



図13 スタジアムでは迫力満点のNFLの試合が楽しめる（オークランド）

fig. 13 In the stadium, we can enjoy dynamic games of NFL (Oakland)



図14 マジソンスクエアガーデンでNHLの試合を観戦する筆者（ニューヨーク）

fig. 14 The author watches the game of NHL in Madison Square Garden (New York)

がります。日本では、アメリカンフットボールはそれほど普及していないので、ルールを理解されていない方が多いと思いますが、前もってNFLの中継を少し見ておけばルールもわかり、より楽しく試合を観戦することができると思います。

5. バスケットボールとアイスホッケー

バスケットボール（NBA）とアイスホッケー（NHL）もアメリカではポピュラーなプロスポーツです。NBA（National Basketball Association）、NHL（National Hockey League）ともにアメリカ、カナダの30チームが加盟しています。どちらも2つのカンファレンス、そして各々3つの地区に分かれて地区優勝を争います。レギュラーシーズン終了後にプレーオフを行い、最終的に2つのカンファレンスの勝利チームが激突して優勝を決めるのも野球やフットボールと同様です。NBAでは優勝決定戦をNBAファイナルズと呼び、NHLでは優勝チームにスタンレーカップを贈ります。

どちらも屋内で試合が行われ、同じスタジアムでバスケットとアイスホッケーの両方を開催する場合があります。例えば、ニューヨークのマジソンスクエアガーデンは、バスケットではニューヨーク・ニックス、アイスホッケーではニューヨーク・レンジャースのホームになっています。おおよそ18,000から20,000人収容のスタジアムがほとんどですが、NHLのリンクの方が大きいので、アイスホッケーの試合ではバスケット



図15 NHLのゲームではしばしば乱闘がみられる（ニューヨーク）

fig. 15 In the game of NHL, a brawl is often seen (New York)

よりも収容人数が多少少なくなります。チケットの入手方法は野球やフットボールと同じであり、強豪チーム、人気チームではチケットが取りにくくなります(図14、15)。

NBAでは、2004年に田伏勇太選手がフェニックス・サンズと契約し、11月1日の開幕戦から4試合に出場しましたが、その後解雇されました。私は開幕戦の時にたまたま学会でフェニックスに滞在していたので、この試合を見ることができました。3ポイントシュートを決めたりして結構活躍したのに、解雇されたのは残念でなりません。田伏選手以外で日本人選手がNBAの公式戦に出場したことはありません。NHLでも日本人の公式戦出場はありません。ただし、ポール・カリヤ（アナハイム）のように日系人でNHLのスター選手として活躍した例はあります。

インターネットが発達して、アメリカのプロスポーツのチケットが日本で簡単に入手できるようになりました。アメリカのプロスポーツには日本とは違った盛り上がりがあり、機会があればぜひ観戦されることをお勧めいたします。

参考文献

- 1) 中村隆志：第1章オールセラミックスの可能性を開くジルコニア，補綴臨床別冊 最新CAD/CAMレストレーション，医歯薬出版，東京，40-43. 2008.
- 2) 中村隆志，宮前守寛：チェアサイドの各種臨床術式，歯科技工別冊 ジルコニアレストレーション，医歯薬出版，東京，72-81. 2011.

●抄録● アメリカのスポーツ観戦ガイド
／中村 隆志

北米には、4大プロスポーツリーグ、すなわちメジャーリーグベースボール (MLB)、ナショナルフットボールリーグ (NFL)、ナショナルバスケットボールアソシエーション (NBA)、ナショナルホッケーリーグ (NHL) があります。これらの4つのプロスポーツリーグはとてもポピュラーであり、一般に「ビッグフォア」といわれています。NFLは32チームで、その他の3つのリーグはアメリカあるいはカナダの30チームで構成されています。本稿では、北米の4大スポーツリーグの観戦法について紹介したいと思います。

How to Enjoy Professional Sports in North America

Takashi NAKAMURA, D.D.Sc., F.I.C.D.

There are four major professional sports leagues in North America such as Major League Baseball (MLB), National Football League (NFL), National Basketball Association (NBA) and National Hockey League (NHL). These four leagues are very popular and commonly referred as the “Big Four”. The NFL has 32 teams and the other leagues have 30 teams in United States and Canada. I would like to describe how to watch major four sport league in this paper.

Key words : Baseball, Football, Basketball, Ice hockey